

8月23日(土)、24日(日)に

わたり「なかてはら夏祭り」が盛大に開催されました。

夕闇が迫る18時頃、色とりどりの提灯に飾られた二丁目公園にはすでに多くの人が集まり、盆踊りの開始を今か今かと待ちわびていました。会場には恒例となったフランクフルト、わたがし、かき氷やジュースなどの販売、マザークラブによるスーパーストール拾いや輪投げ、第2どんぐり学童によるゲームやくじ引きなどの夜店が並び、来場者を賑やかに迎えてくれました。

その後、メインイベントである盆踊りが始まると、飛び入り参加の踊り手たちも輪に加わり熱気は最高潮。今年は演目に「マツケンサンバ」が加わり、大人も子どもも音楽に合わせて楽しく真剣に踊る様子が印象的



第71号

発行
仲手原自治会

令和七年
夏祭り



でした。時間を追うごとに盛り上がりを見せた盆踊りは、両日終了時間の20時30分まで続きました。

一方、24日の朝に予定されていた山車曳きは、当日朝発表された熱中症警戒アラートを受け、残念ながら2年連続で中止となりました。昨年同様、山車に乗って記念撮影ができる場を設け、来場者にはお菓子を配布するなどの対応がなされました。

本年も2日間にわたり無事故で行われた伝統の「なかてはら夏祭り」でしたが、終了時の自治会長の挨拶では「年々厳しくなる夏の暑さを考慮して来年は時期をずらして行うことも検討していきたい」との発言も。今後も安全な運営を第一にしながら仲手原の風物詩を守っていければと思います。

(加藤篤志)





避難所テント

7月6日(日)「横浜市で震度7の地震が発生した」という想定のもと、港北小学校地域防災拠点訓練が行われました。午前9時過ぎ頃から仲手原自治会ほか6自治会からの避難者が港北小学校に到着し始め、避難者受付を開始しました。9時40分頃、アマチュア無線を使って防災拠点と港北区役所との通信が行われ、拠点から区役所に避難者数が報告されました。

齊藤眞幾男会長が拠点訓練の開催を宣言したのち、各自自治会ごとに色々な訓練を順に回って、見学または体験をしました。

- ① 避難所テントの展開・収納訓練
- ② 段ボールベッド組立訓練
- ③ ポリ袋による炊飯見学
- ④ マンホールトイレ組立見学
- ⑤ 非常時水道設備見学
- ⑥ 防災倉庫見学

ポリ袋炊飯で炊いたお米は、参加者にお持ち帰り戴きました。



毎年実施しているスタンドパイプ式初期消火器具訓練は、2月23日(日)の午前中に一丁目、午後は二丁目で行われ、どちらも約10名の方が放水操作を体験しました。



放水操作体験 (二丁目会場)

119番をしたあと、消防隊が到着するまでに初期消火放水ができれば、火災の拡大を最小限に留める効果があります。仲手原自治会には、全体で13台のスタンドパイプ式初期消火器具が配備されています。住民だれでも消火器の操作ができるようにしたいと思います。(この記事は前回号掲載予定でしたが、紙面の都合で本号へ繰り越しました。)



石田眞実 氏



311net

9月20日(土)自治会館において、よこはま防災研修へ支援編「地域の特性に応じた基本的な災害の備え」と題して、NPO法人かながわ311ネットワークの石田眞実氏による講義がありました。

1. 『想定される大規模地震』
今後30年以内に70～80%の確率で私達が暮らす横浜市にも南海トラフ地震や首都直下地震が想定されています。その結果、建物の倒壊、火災、土砂災害、液状化が発生し、ライフラインの崩壊が起きます。それは電力、水道、ガス、通信、道路、鉄道の停止を伴い実生活を困難にさせる要因になります。
2. 『在宅避難』
横浜市では、想定避難者数を算出しています。港北区では33.5万人中5.3万人としています。避難者は全壊、全焼した全員と半壊、半焼した人の半数の方々です。その避

難所は「地域防災拠点」と称する小・中学校になります。港北区には地域防災拠点が29ヶ所ありますがその環境は過酷で厳しいものになると想われます。そこで横浜市では在宅避難を基本としています。

自宅に避難するには①安心して眠れる部屋の確保と②物資の備蓄です。少なくとも3日分の飲料水、食料、トイレパック、消火器の備蓄があります。そして必ず実行したい事は罹災証明用に被災箇所の写真を撮っておくことです。

3. 『自治会・町会の役割』
災害時地域に大きく貢献してくれるのが、自治会・町会です。自治会・町会々館は一時避難所になり、初期消火や在宅避難者名簿作成、支援物資、非常用物資、衛生用品の確保、自治体より提供される飲料水・食料等の確保を行います。

また災害時障害者で通常の避難施設では生活困難な人への支援も行います。住民への情報提供では、回覧版の配布や掲示板での情報も流します。災害時に頼りとなるのも自治会・町会と考えてください。

(中村泰雄)



よこはま防災 e-パーク

横浜市避難ナビ

昭和16年12月8日、日本軍はマレー作戦に続いてハワイの真珠湾を攻撃しましたが、ほぼ同時に米国の信託統治領であったグアム島を攻撃して占領しました。

太平洋戦争の終盤、昭和19年になると、米軍は日本の南方戦略の拠点となっていたマリアナ諸島への攻撃をはじめました。対抗する日本軍は中国・満州に配備していた兵をグアム島を含むマリアナ諸島へ移動して防衛にあたることにしました。

筆者の父は満州でソ連邦国境の警備をしていましたが、昭和19年



令和6年7月 第12回慰霊祭(グアム鎮魂社)

2月グアム島に送られました。米軍は6月にサイパン島を陥落させたのち、7月にグアム島の奪還に着手しました。島の周りに軍艦を並べて一斉に艦砲射撃をし、ついに7月21日の総攻撃で勝利宣言をしています。9月、大本営もグアム玉砕を認めました。

しかし、グアム島のジャングルで父は生きていました。当初は15名程度の小隊で移動していたようですが、米軍の攻撃にやられて8名程度になりながらも戦いを続けていました。約1年後、米軍の飛行機から終戦を告げる放送が繰り返され、戦闘機が空を飛ばなくなったことから、父と残った隊員が協議して、米軍に出頭することに決めたそうです。父は米軍の施設に約1年間収容された後、昭和21年11月に帰還しました。

グアム島に上陸した日本兵は約2万人、帰還できた日本兵は2千人弱でした。

昭和35年には2名の日本兵が発見され、昭和47年には有名な横井庄一さんが発見されています。

平成20年に父が亡くなってしばらくして、父と同じ隊にいて戦死された方のご遺族から筆者に電話

があり、グアム島で戦死した方々を慰霊する集まりがあることを知りました。

翌年の夏に開催された慰霊祭には、靖国神社の神主が出張して下さり、日本軍が最後の司令部を置いた場所で開催しました。日本の国会議員、地方議員も数名参加しました。

この慰霊祭に参加したメンバーの中から、島内のどこかに神社を建てられないだろうか、という話が出て、現地で旅行会社を経営している日本の方が敷地探しを始めました。

島の日系有力者に神社敷地について相談したところ、なんと、グアム政府知事公舎の庭を利用して良いという許可を得ました。知事公舎の庭ですから、グアム戦争で亡くなった日本兵だけでなく、



グアム鎮魂社



聖母親音像

現地の方、アメリカ兵、すべての方々の慰霊の場所ということにし、「グアム鎮魂社」と呼ぶことにしました。

慰霊の集まりの名前を「戦争を風化させない会」としました。

その後、大阪岸和田にあるお寺の住職が観音像を寄付して下さり、知事の許可を得て鎮魂社に隣接して建立しました。令和6年には第12回目の慰霊祭を開催しました。

グアム島を訪れる機会があれば、グーグルマップで「グアム鎮魂社」と検索して下さい。



(文・写真 押尾泰典)

篠原八幡神社 例大祭

奉納空手「形の演武」

8月23、24日、篠原八幡神社境内舞殿において18時より演芸大会が奉納されました。23日夕方の境内は、保護者に連れられた大勢の子どもたちが訪れ、本殿にお参りしていただきました。夜店も多く出店し参道は歩くのも大変でした。



指導員：佐久間和道 三段(左)の説明による 空手「形の演武」

舞殿では「阿波踊り」、「神道夢想流杖道」、「いろいろなダンス」に続いて、仲手原から全日本空手道連盟和道会横浜支部川口会・井上道場の門下生による空手「形の演武」が奉納されました。演武は一対一の試合形式ではなく、多人数の演技者が空手の多くの形を披露するといふもので盛大な拍手が送られました。(井上道場の稽古日月、木、土曜日 18:30~20:15)



陳式太極拳：中村さん(左) ハーモニカ：三原さん(右)

9月12日(金)仲手原ことぶき会では敬老のお祝いを自治会館で行い約60人が出席しました。井上会長会の会の報告に続き、三原米子さんのハーモニカ演奏と中村泰雄さんの陳式太極拳が披露され、大きな拍手で会を盛り上げました。その後、宴会になり各自お赤飯を頂き楽しい会が終了しました。

長寿の御祝贈呈



9月15日敬老の日、今年も仲手原自治会から、長寿の御祝が贈呈されました。77歳(長寿)28名、88歳(米寿)27名、99歳(百寿)2名、計57名の方々に御祝金、また 70、75、80、85、90、95歳 計117名の方々に御祝品が民生・児童委員の方々により届けられました。



宇佐美潤介氏(前)

「自分に見えない物を見たい」「自分に聞こえない物を聞きたい」子どもの頃見えていた物が大人になると見えなくなるといふ事はよくあることです。音も然り。

弊花壇ではそんな難問を単純化するための工夫を散りばめた空間を提供しています。子どもたちには明るい未来を歩むための想像力を生み出す学びの場としてくれたら嬉しいです。元子どもの方には植物達の織り成す合唱曲を堪能しに来てください。今ならなんと全席無料で開放しています。特にレンタルディスプレイを求められる方は継続的に訪ねてみて欲しいですね。未来は時々過去に似ている。花壇内には自由世界へ繋がる螺旋階段があることをご存知ですか。

「審美眼」 「少年老い易く学成り難し」 今秋冬はこのテーマで展開していきます。(宇佐美潤介)

自治会だより

- 10月 「なてはら」第71号発行 健康づくり体操(7・24日) 健民祭(13日) 仲手原防災訓練(18日)
- 11月 秋のふれあいまつり(8日) 港北区ベタンク大会(9日) 健康づくり体操(11・21日) 仲手原寄席(30日)
- 12月 「日の出を見る会」(20日) 自治会館年末大掃除(20日)
- 1月 港北駅伝大会(18日) 健康づくり体操(20日)
- 2月 健康づくり体操(6日)

子供会だより

- 11月 紙ヒコーキ大会(2日)
- 2月 節分豆まき大会(1日)



夏祭り や 花壇作り の話題は Instagram でもご覧になれます

編集スタッフ

- 植木幹造・押尾泰典・加藤篤志・山口美和

編集責任者：中村泰雄